宝塚 Legal F NEWS vol.27

令和５年（2023 年）３月

弁護士法人福間法律事務所
代表弁護士 福 間 則 博、 弁護士 尾 﨑 悠 吾
〒665－0845　兵庫県宝塚市栄町２丁目２番１号ソリオ３（５階）
TEL：0797-87-5606　FAX：0797-87-7160
HP：https://www.fukuma-law.com/
Mail：office@fukuma-law.com
執筆：弁護士福 間 則 博

Legal F：Forces for Friends, Families and Fortunes（友人、家族、財産を守る力）

「シンクロニシティ　～科学と非科学との間に～」

ポール・ハルパーン　権田敦司訳
（あさ出版　2023 年１月発行）

1. シンクロニシティとは、例えば、ふと思い立ってある人に電話をすると、ちょうどその時その人もこちらに電話をしてきており、お互いが話し中であったりするように、偶然の一致でありながら、そこに何らかの関係があるように思える事象を意味します。これを初めて心理学用語として用いた C.D.ユング（1875～1961）は、患者が黄金色のコガネムシの出てくる夢の話をしている最中に、その地方では珍しい黄金色のコガネムシが部屋に入ってきた例を挙げているそうです。
2. これが果たして偶然なのか、あるいは、そこに何らかの因果的な関係があるのか興味深いところです。ユングは、個人の意識を超えた集合的無意識において各人はつながっているとする立場からこの関連を認めていますが、科学的な根拠を持つかは疑問であるところ、近時の量子力学からすれば、関連がありそうにも思えるところです。
3. 量子力学によれば、対になった量子（もつれた状態にある量子）は、一方の量子の状態が観測によって定まると、他方の量子はいかに遠く離れていても瞬時に反対の状態になり、その瞬間性は光速を越えるとされています。この現象は、光速以上の情報伝達を認めないアインシュタインの立場から疑問視されていましたが、昨年のノーベル物理学賞はこの現象の真実性を証明した三氏に贈られたものでした。
4. 本書の著者によれば、「量子もつれは相互作用ではなく、粒子間の相関である」とし、自然界には２種類の「伝達ルート」があり、ひとつは、光速を最高速度とする伝達経路であり、もうひとつは、人間の観察と同時に相関を示す量子相関という経路であるとしておりますが、わかりやすい説明のように思いました。
5. 「シンクロニシティ（Synchronicity)」は、ユングがこの言葉を題名とする本を出版することにより広まった言葉ですが、それは心理学と量子力学との遭遇がもたらした成果であり、ユングが後にノーベル賞を受賞する量子物理学者 W.E.パウリ（1900～1958）を自己の患者としてその夢分析等を行い、その過程で量子力学的知見を得ていたことを背景としております。パウリは学会における最高裁判所長官とも評されるほどの権威を有していたようですが、私生活においては結婚して１年足らずで離婚する等し、精神的不安定からユングの治療を受けていたものです。本書では、パウリの学問的業績だけでなく、その人柄や私生活、ユングとの関係等が興味深く語られており、天才的学者たちの私生活もうかがい知ることができる面白さがあります。また、本書冒頭には生物学者福岡伸一氏（京都大学教授）の巧みな紹介文が載せられており、それだけでも読むに値します。
6. さて、余談ですが、この本を紹介する経緯について若干お話しさせてください。実は、先月（２月）この本を買い、２月 27 日に読了し、ニュースレターで紹介しようと思って感想をまとめようとしたのですが、なかなかまとまらず、結局書くのをやめ、急遽、前号の「自筆証書遺言書保管制度」を書いて３月１日に配信したのです。その二日後の３月３日（金曜日）、私は一週間の仕事を終

え、家に帰ってくつろぎ、家族に自分が小学生の頃、親戚の家に行って遊んだ夏休みの日々のことを話しておりました。

7. 田舎に行くと私より数歳上のおねえさんが私に「則ちゃんは、生きるために食べるの、それとも、食べるために生きるの？」等と哲学的な問いかけをし、また「旅行するとき、各駅停車の鈍行がいい、それとも、急行がいい？」と聞いてきて、私が「早く行ける急行がいい」と言うと、そのおねえさんは「それもいいけど、それだと景色があまり見えないかもしれないね」等という方でした。その会話の印象が子供ながらに強烈で夏休みにそのおねえさんに会うのが楽しみであり、その懐かしい思い出を話しておりました。

8. そうしておりましたところ、その 3 日後の 3 月 6 日、その方から自宅に手紙が届いたのです。これには私も本当に驚きました。その方は 250 キロ以上離れた所に住まわれ、これまで 50 年以上手紙のやりとりは一度もなかったからです。まさに偶然の一致かも知れませんが、しかし、どこかで何かがつながっているようにも感じ、本書を紹介しようと思った次第です。

以上